

各位

熊本医療センター 精神科

橋本 聡

今回、国立病院機構熊本医療センター（以下、KMC）の救急外来を受診した自殺関連症例統計、厚生労働省が公開する自殺の統計：地域における自殺の基礎資料より熊本市の自殺統計を比較しました。2022年度から2025年度まで、男女別、10歳刻みの年代区分ごとに集計・比較しました。

男女別・年代別（10歳刻み）の比較

以下に、KMCのER症例数と熊本市の自殺死亡者数を年代別に並べて比較します。

【男性】

年代	データ	2022年度	2023年度	2024年度
10代	KMC症例数	1	3 (↑)	4 (↑)
	市死亡者数	1	0 (↓)	0 (→)
20代	KMC症例数	27	27 (→)	36 (↑)
	市死亡者数	8	4 (↓)	8 (↑)
30代	KMC症例数	17	17 (→)	19 (↑)
	市死亡者数	8	8 (→)	13 (↑)
40代	KMC症例数	18	18 (→)	24 (↑)
	市死亡者数	19	17 (↓)	22 (↑)
50代	KMC症例数	12	19 (↑)	15 (↓)
	市死亡者数	20	13 (↓)	20 (↑)
60代	KMC症例数	8	8 (→)	11 (↑)
	市死亡者数	14	6 (↓)	4 (↓)
70代	KMC症例数	2	3 (↑)	8 (↑)
	市死亡者数	8	11 (↑)	10 (↓)
80代~	KMC症例数	0	0 (→)	0 (→)
	市死亡者数	0	1 (↑)	1 (→)

【女性】

年代	データ	2022年度	2023年度	2024年度
10代	KMC症例数	37	55 (↑)	64 (↑)
	市死亡者数	4	3 (↓)	2 (↓)
20代	KMC症例数	51	58 (↑)	75 (↑)

年代	データ	2022年度	2023年度	2024年度
	市死亡者数	13	8 (↓)	8 (→)
30代	KMC症例数	30	35 (↑)	47 (↑)
	市死亡者数	3	3 (→)	2 (↓)
40代	KMC症例数	20	26 (↑)	32 (↑)
	市死亡者数	10	8 (↓)	9 (↑)
50代	KMC症例数	12	11 (↓)	12 (↑)
	市死亡者数	6	5 (↓)	4 (↓)
60代	KMC症例数	3	5 (↑)	6 (↑)
	市死亡者数	3	2 (↓)	2 (→)
70代	KMC症例数	2	0 (↓)	2 (↑)
	市死亡者数	5	0 (↓)	1 (↑)
80代~	KMC症例数	0	0 (→)	0 (→)
	市死亡者数	0	0 (→)	1 (↑)

年代別・男女別の特徴分析

この詳細な年代比較から、以下、3つの特徴が認められました。

特徴1：【女性・40歳未満】で最も顕著な「防波堤効果」

- **10代女性**: KMCの症例数が37件→55件→64件と一貫して増加する一方、市の死亡者数は4人→3人→2人と一貫して減少しています。
- **20代女性**: KMCの症例数が51件→58件→75件と急増しているのに対し、市の死亡者数は13人→8人→8人と、2022年度の水準から減少したまま低位で抑えられています。
- **30代女性**: KMCの症例数が30件→35件→47件と増加する一方、市の死亡者数は3人→3人→2人と**低位で推移（微減）**しています。

結論: 10代・20代・30代の女性群は、KMCがERで対応する症例数（自殺企図者）が急増しているにもかかわらず、市全体の死亡者数が明確に減少・抑制されています。これは、スライドで示されたKMCの「防波堤効果」が最も強く表れている群と言えます。

特徴2：【男性・労働世代】で生じている「介入と死亡の乖離」

- **20代男性**: 2024年度にKMCの症例数が増加（+9件）しましたが、市の死亡者数も増加（+4人）しました。
- **30代男性**: 2024年度にKMCの症例数が微増（+2件）しましたが、市の死亡者数は増加（+5人）しました。
- **40代男性**: 2024年度にKMCの症例数が増加（+6件）しましたが、市の死亡者数も増加（+5人）しました。
- **50代男性**: 2024年度にKMCの症例数は減少（-4件）しましたが、市の死亡者数は大幅に増加（+7人）しました。

結論: 「2024年度の市全体の自殺死者数を押し上げた」と考えられる男性・40-64歳（特に40代、50代）および男性・40歳未満（特に20代、30代）の群は、KMCのERが対応している症例数とは異なる動き（あるいはKMCの介入をもってしても防ぎきれない）で死亡者数が増加して

いることが分かります。これは、仮説として、致死性の高い手段の選択、社会的・経済的要因などが、この層に強く働いている可能性が考えられます。

特徴3：【60代男性】に見られる「防波堤効果」

- **60代男性**: KMCの症例数が8件→8件→11件と横ばい～増加傾向にあるのに対し、市の死亡者数は14人→6人→4人と、**顕著な減少傾向**を示しています。

結論: 高齢者層の入口にあたる**60代男性**の群は、女性の若年層と同様に、KMCの介入と市の死亡者数の減少が連動している「防波堤効果」が認められる群かも知れません。